

日 時	令和2年2月5日(水) 10:20~10:35 第3回経営会議
出席者	市長、渡辺副市長、平原副市長、小林副市長、荒木田副市長、政策局長、総務局長、財政局長、政策局政策調整担当理事
欠席者	
議 題	1 「附属2病院再整備構想の方向性」について【政策局】
議 事 要 旨	<p>1 「附属2病院再整備構想の方向性」について</p> <p>【論点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市大が作成した「附属2病院再整備構想の方向性」について、有識者意見等を踏まえ、次の方向性で今後の検討を進める。 <p>＜再整備構想の方向性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属病院の建物・設備の老朽化等に対応するため、再整備に向けた具体的な検討をすすめる。 ・再整備にあたっては、今後、高度急性期・急性期病床の需要が低下する見込みであることや、2病院体制による現行の課題を解決するため、大学病院としての機能を1病院に集約する。病床数については、1,000床程度を基本とするが、有識者の意見等を踏まえ、今後更に精査する。 ・新たな附属病院は、診療・教育・研究機能を一体として整備し、機能は、現在2病院が有している機能を基本に、検討をすすめる。 ・現行の2病院については、新たな附属病院の立地や、現行2病院が立地している地域に、将来求められる医療・福祉ニーズを踏まえながら、必要な機能を残すことを基本とする。 ・再整備は現行2病院(福浦・浦舟)の敷地では困難なため、将来的な医療需要の高さ、市全域からのアクセス性を考慮し、市中心部を中心に、必要な条件を満たす土地を検討する。 <p>※現在のところ、市中心部に適地はない。しかし、将来的な土地利用の可能性まで広げて検討すると「米軍根岸住宅地区(約43ha、国有地・民有地)」は、新附属病院に求められる土地の条件を概ね満たす。</p> <p>【説明要旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行2病院は、ともに老朽化・狭隘化しており、特に患者さんに負担を強いており、さらに狭隘化により、先進的な医療機器も導入できない状況。また、人材不足が続く中、今後も優秀な医療人材を確保していくためには選ばれる病院・大学であることが必要。そのため、附属病院が、地域医療の「最後の砦」として機能し続けるために、再整備に向けた具体的な検討を進める。 ・運営体制については、2病院体制となった平成11年度当時と比べ、本市の医療提供体制は充実が図られている状況。そうした中、2病院体制が抱える課題を抜本的に解決する必要がある、持続的な病院経営をめざすため、現行2病院体制を見直し、1病院体制とする。

- ・病院規模については、新たな附属病院が担うべき高度急性期・急性期の病床数は、診療・教育・研究の観点から1,000床程度を基本とし、有識者意見、将来的な医療需要、平均在院日数の短縮化、全市的な機能別病床数の推計等を踏まえ、経営的な視点をもって、更に精査を行っていく。
- ・再整備する施設については、診療・教育・研究機能を一体として整備し、その機能は、2病院が担ってきた機能、政策的な役割の維持を基本としながら、今後更に検討する。
- ・新附属病院に求められる土地の条件については、「将来の医療需要に即した配置」、「交通アクセス」、「高度救命救急センター機能」、「災害拠点病院機能」があるが、現在の病院敷地での建て替えは、病院利用者の不便さ、事業期間の長期化、事業費の増加等のリスクが大きいため、必要な条件を満たす第三の土地に再整備することが望ましい。
現状では、市中心部エリアに、条件に合致し、すぐに活用できる市有地、国有地はないが、将来的な土地利用まで検討範囲を広げると、米軍根岸住宅地区は、新附属病院に求められる土地の条件を概ね満たしている。
- ・現行2病院については、新たな附属病院の立地場所や、現行2病院が立地している地域に将来求められる医療・福祉ニーズを踏まえながら、必要な機能を残すことを基本とする。

【主な意見等】

- ・将来的な医療需要を見据えたものであり、良い取組。患者及び医療従事者にとって、良い病院となるような検討を行うこと。
- ・医療従事者の人手不足が深刻化するため、人員確保は重要。また、働き方改革を進めることにより、さらなる人員が必要になることも考えられる。
- ・現行2病院の跡地利用については、地域に不足する医療需要や福祉ニーズを踏まえ、丁寧な対応をすること。

【結論】

局案の方向性について了承。実施に向けては、主な意見で指摘された点を踏まえた検討を進めていくこと。